

腎盂尿管転移をきたした前立腺癌の1例

市立芦屋病院泌尿器科 (部長: 吉田隆夫)

前田 信之, 吉田 隆夫

METASTATIC TUMOR OF RENAL PELVIS AND URETER
FROM PROSTATIC CANCER: A CASE REPORT

Nobuyuki MAEDA and Takao YOSHIDA

From the Department of Urology, Ashiya Municipal Hospital

An 86-year-old man was admitted to our hospital with a complaint of gross hematuria. Urological examination revealed right hydronephrosis and poorly differentiated adenocarcinoma of the prostate with bone metastases. Abdominal computed tomographic scan and retrograde pyelography showed thickening of the ureteral wall with irregular stenosis in the right upper ureter. Right nephroureterectomy demonstrated diffuse lymphatic infiltration of PSA-positive cancer cells in the submucosa and muscle layer of the ureter as well as renal pelvis. This is the 6th reported case of metastatic ureteral tumor from prostate cancer in the Japanese literature.

(Acta Urol. Jpn. 45: 273-275, 1999)

Key words: Metastatic ureter tumor, Prostatic cancer

緒 言

前立腺癌の転移部位としてはリンパ節, 骨, 肺などが多いが, 腎盂, 尿管に転移することは稀である. 今回われわれは腎盂尿管転移をきたした前立腺癌の1例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する.

症 例

患者: 86歳, 男性

主訴: 無症候性肉眼的血尿

既往歴: 1991年に胃癌にて胃全摘術を施行されている.

家族歴: 特記すべきことなし

現病歴: 1996年11月頃に突然, 無症候性肉眼的血尿が出現したが放置していた. 1997年7月に再び肉眼的血尿が出現し当科受診となった. 超音波検査で右腎に水腎症と嚢胞を認め, 直腸診では前立腺は石様硬であった. 膀胱鏡検査では膀胱内に腫瘍は認めず, 両側尿管口も異常を認めなかったが, 前立腺部尿道は表面不整であった. このため精査加療目的に当科入院となった.

検査所見: 末梢血検査で Hb 10.9 g/dl と若干の貧血を認めたが血液生化学検査では異常所見を認めなかった. 腫瘍マーカーでは PSA (グラオザイム PA 正常値 2.2 ng/ml 以下) が 31.3 ng/ml と高値であったがその他 CEA, CA19-9, CA125 は正常範囲であった. 尿細胞診は Papanicolau class II であった.

入院後経過: 入院にてまず前立腺生検を施行したと

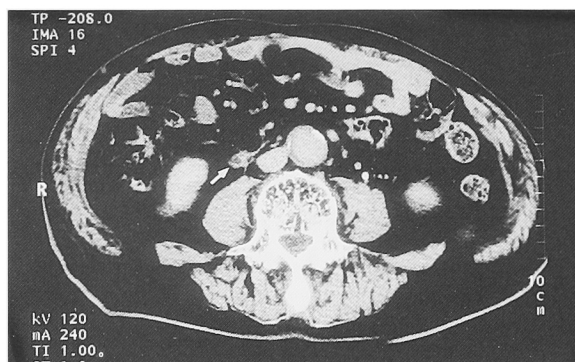


Fig. 1. Computed tomography showed thickening change of right upper ureter (arrow).

ころ poorly differentiated adenocarcinoma との病理診断であった. これと平行して水腎症の精査も施行した. IVP で右腎に嚢胞と水腎症を認め, 腹部 CT では右上部尿管の壁が肥厚しており造影では不整に enhance された (Fig. 1). CT 上で骨盤内および傍大動脈リンパ節の腫大を認めなかったが, 骨シンチで骨転移を認め前立腺癌の stage は D2 であった. これによりホルモン治療を行うこととし, 腰椎麻酔下で両側精巣摘出術と逆行性腎盂造影を施行した. 分腎尿がうまく採取できなかったため造影のみ行ったところ CT で見られたように上部尿管に狭窄部を認めた (Fig. 2). これにより右水腎症の原因は前立腺癌とは別に上部尿管の腫瘍性病変が考えられた. 患者および家族と相談した結果, 右尿管に関しても手術治療を行うこととした.

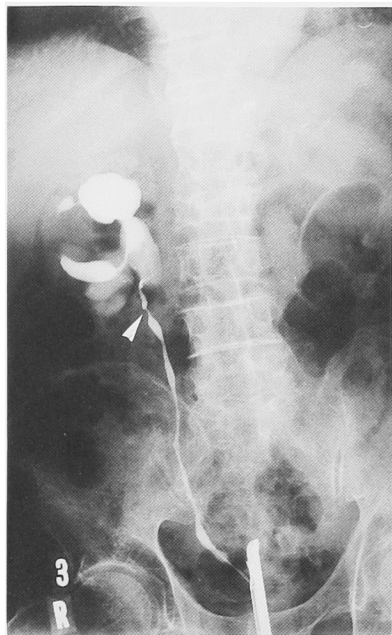


Fig. 2. Retrograde pyelography showed obstructive change of the right upper ureter (arrowhead).

手術所見：腰部斜切開で後腹膜腔に達した。右上部尿管の狭窄部は硬く周囲と癒着していたが、他臓器との腫瘍連続性は認められなかった。また狭窄部以下の尿管は触診上正常と思われた。年齢も考慮し尿管を膀胱直上で結紮切断し右腎尿管を摘出した。

病理組織所見：尿管の狭窄部は粘膜下の間質および筋層内のリンパ管に腫瘍細胞を認めたが、尿管粘膜には異常を認めなかった。また腎盂と尿管断端にもわずかであるが同様の腫瘍細胞を認めた。前立腺からの転移が疑われたため PSA 染色を施行したところ、リンパ管内の腫瘍細胞が染色され、前立腺癌の腎盂尿管転移との病理診断であった (Fig. 3)。

術後経過：術後経過は良好で精巣摘出後1カ月目の採血で血中 PSA は 0.1 ng/ml と正常化していた。術後9カ月を経過する現在も再発の徴候を認めていない。

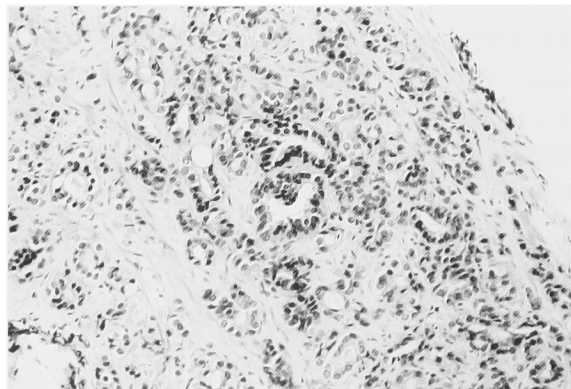


Fig. 3a. Trans-rectal needle biopsy of prostate revealed moderately differentiated adenocarcinoma (H.E. stain, ×200).

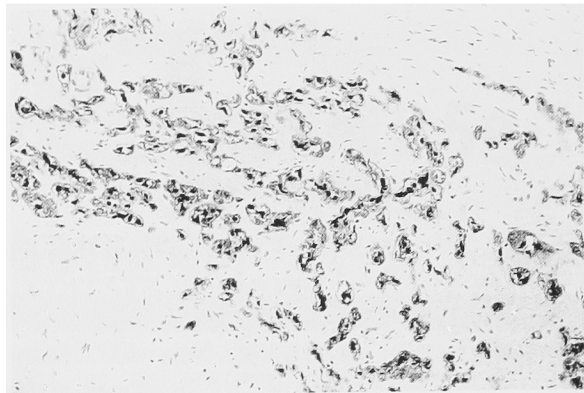


Fig. 3b. Histological finding of obstructive segment of the right upper ureter revealed metastatic adenocarcinoma from prostate (PSA stain, ×200).

考 察

転移性尿管腫瘍は比較的稀な疾患であり、前立腺癌においても転移部位としてはリンパ節、骨、肺、膀胱など多く腎盂尿管に転移した報告例は少ない。転移性尿管腫瘍は近接臓器からの直接浸潤と区別するために Presman ら¹⁾により定義され、1) 尿管壁内に腫瘍細胞が存在し、近接臓器よりの尿管への直接浸潤がないこと、2) 尿管のリンパ管内または血管内に腫瘍細胞が存在すること、のいずれか一方を満たすこととされており一般的に認められている。本症例においては尿管を膀胱直上で切断しているため、膀胱内および壁内尿管に腫瘍細胞が存在しているか否か不明である。そのため前立腺癌が膀胱を介し尿管、腎盂へと浸潤していったという可能性は否定しきれないが、膀胱鏡所見で膀胱粘膜、尿管口に異常を認めなかったこと、病理組織でリンパ管内のみに腫瘍細胞が認められることよりリンパ行性の転移と考えられた。

転移性尿管腫瘍の本邦報告例は自験例を含め63例目と考えられ、原発巣に関しては胃癌が最も多く、ついで腎癌である²⁾。前立腺原発においては6例目と非常に少なく³⁻⁷⁾、この理由としては尿管下端のリンパ流は下方に注いでおり、尿管周囲のリンパ管は縦に連続性を有していないためと考えられている⁸⁾。予後については転移性尿管腫瘍自体癌末期における全身転移の一転移巣でありきわめて不良で本邦報告例の半数以上が1年以内に死亡している。しかし前立腺原発のものはその他の原発に比べ予後は良いようである。これはかなり進行した前立腺癌にもホルモン治療が奏効しているためと考えられる。

結 語

86歳、男性にみられた前立腺癌原発の右尿管転移の1例を経験したので若干の文献的考察を加え報告した。

文 献

- 1) Presman D and Ehrlich L: Metastatic tumors of the ureter. J Urol **59**: 312-325, 1948
- 2) 善本哲朗, 辻本幸夫, 北村憲也, ほか: 尿管自然破裂をきたした転移性尿管腫瘍の1例. 泌尿紀要 **41**: 57-60, 1995
- 3) 島田宏一郎, 大滝三千雄, 近沢秀幸, ほか: 転移性尿管癌の3例. 泌尿紀要 **20**: 523-527, 1973
- 4) 鎌田日出男, 池 紀征, 藤田幸利, ほか: 尿管転移をきたした前立腺癌の1例. 西日泌尿 **40**: 719-723, 1978
- 5) 早川正道, 小田島邦男, 藤岡俊夫, ほか: 続発性腎盂尿管腫瘍の臨床的検討. 臨泌 **35**: 51-57, 1981
- 6) 大島憲二, 鶴飼麟三: 尿管腫瘍を疑わせる進展形式をとった前立腺癌の1例. 西日泌尿 **48**: 903-906, 1986
- 7) 宮川嘉真, 山田芳彰, 山田博彦, ほか: 尿管腫瘍を疑わせる進展形式をとった前立腺癌の1例. 日泌尿会誌 **79**: 945, 1988
- 8) Carson WJ: Metastatic carcinoma in the ureter. Ann Surg **86**: 549-555, 1927

(Received on October 20, 1998)
(Accepted on December 28, 1998)